

G7 公開シンポジウム — 資源効率性と低炭素社会による機会と示唆 — の開催について

＜国連大学サステナビリティ高等研究所、
（公財）地球環境戦略研究機関同時発表＞

平成28年11月17日（木）
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
企画課循環型社会推進室
直 通 03-5521-8336
代 表 03-3581-3351
企 画 官 小野 洋（内線6811）
室長補佐 須賀 義徳（内線6814）
担 当 土屋 美樹（内線6892）

この度、資源効率性と低炭素社会による機会と示唆をテーマに、公開シンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムは、本年5月のG7 富山環境大臣会合やG7 伊勢志摩サミットの成果も踏まえて、昨年のG7 エルマウ・サミットにおいて設立された「資源効率性のためのG7 アライアンス」の取組の一環として行うものです。G7 各国及びその他の政府、企業、研究機関、国際機関等の参加を得て、低炭素社会における資源循環システムのあり方について、情報共有や意見交換、関係者の交流を促進することを目的としています。

世界における資源の消費は、これまでになく大きく増加しております。資源の生産、消費、廃棄といった活動は、温室効果ガスの排出と大きく関係しており、3Rの推進によって資源効率性を向上させることは、循環型社会の実現のみならず、温室効果ガスの排出削減も期待できます。また、将来実現すべき低炭素社会が、資源循環システムにどのようなことを示唆するのかにも注意を払う必要があります。

特に、昨年の国連気候変動枠組条約第21回締約国会合（COP21）でパリ協定が採択されて以降、資源効率性政策と気候変動政策を協調させることの重要性が強く指摘されてきました。本年5月に富山で発表されたUNEP国際資源パネル（IRP）の最新の報告書においても、気候変動対策と資源効率政策の統合は、費用効率的に気候変動目標を実現するために必要不可欠であるとともに、これにより2050年までに更に28%の温室効果ガスの削減が可能であると指摘されています。G7 富山環境大臣会合において採択された「富山物質循環フレームワーク」においても、気候変動政策を含むさまざまな政策を統合的に推進することが掲げられています。

このような状況で、両分野をつなぐための次のステップとして、低炭素社会における資源循環システムとはどのようなものなのか、我々はどういったことに取り組んでいかなければならないのかを特定する必要があります。本シンポジウムは、このような問題意識のもと、G7 アライアンスの取組の一環として、資源効率性と気候変動問題との関係性をより深く理解し、世界各国におけるベストプラクティスを共有し、関係者間の意見交換や交流の促進することを目的としています。

1. 開催概要

日 時：平成28年12月13日（火）14:00～18:00 ※13:30より受付開始
場 所：国連大学ウ・タント国際会議場（3F）
（東京都渋谷区神宮前5-53-70）

<http://jp.unu.edu/about/contact-us#location>

主催：環境省、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）、（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）の共催
使用言語：日本語・英語（日英同時通訳あり）

2. プログラム

下記のテーマについて、G7 各国及びその他の政府、国際機関、企業等によるパネルディスカッションを予定。

※プログラムは予定であり、変更する可能性があります。

【資源効率性と気候変動対策について】

- ・ 東京大学大学院 教授 森口祐一
- ・ 国立研究開発法人 物質・材料研究機構 特命研究員 原田幸明
- ・ カリフォルニア大学サンタバーバラ校 教授 サンウォン・スーほか

【資源効率性と気候変動対策の統合の実践】

- ・ G7 各国等

【G7 による資源効率性の向上】

- ・ G7 各国等
- ・ UNEP 国際資源パネル（IRP） 共同議長 ヤネス・ポトチュニック
- ・ 経済協力開発機構（OECD） 課長 シャードル・アグラワラ

3. 参加申込

本シンポジウムへの参加は、参加費無料の事前登録制です。参加を希望される方は、下記ウェブサイトの申込フォームより、必要事項をご記入の上、12月7日（水）までにお申し込みください。なお、お申し込みが多数となった場合には受付を締め切る可能性がありますので、お早めにお申し込みください。

■ウェブサイト（申込フォーム）

<http://www.omc.co.jp/g7alliance/jp/index.html>

（参考）G7 アライアンス

昨年6月のG7エルマウ・サミットでは、首脳宣言の中で資源効率性が取り上げられ、産業界、公的部門、研究機関、消費者等のステークホルダーがベストプラクティスを共有するフォーラムとして、「資源効率性のためのG7アライアンス」が設立されました。G7アライアンスは、議長国の主導によりワークショップを開催することとされ、去年は、議長国であるドイツの主導の下、3回のワークショップ（英国との共催を含む。）が開催されました。日本がG7議長国を務める本年には、2月に横浜にて国際協力をテーマにワークショップを開催したほか、3月には米国のホストのもと、ワシントンにて自動車サプライチェーンをテーマにしたワークショップを開催しました。